

# 『シャルロット すさび』

岩名 雅記監督作品／製作：映像舞踏研究所 白踏館／2017年日仏映画  
モノクロ パートカラー／16：9／171分／デジタル撮影

在仏の舞踏家・岩名雅記（72歳）による長編劇映画第4作。  
どのような映画ジャンルにも傾かず、それでいて全ての映画ジャンルをも駆け抜ける、  
舞踏家ならではの映画文法を問い直す奔放にして詩的なインディーズ映画。

自身と世界への失意を抱いたアーティストKが現実、記憶、幻想を超えて3人の女性と  
関わるなかで人間としての誇り、罪の意識、救済を自らに問い、  
新たな「世界」の構築へ向う魂の旅。  
市井の小さな恋物語が やがて神話的ともいえる壮大な叙事詩へと変貌を遂げていく。

出演：Clara Elena Cuda、成田 護、大澤由理、高橋恭子、岡崎 弘、  
鈴木あい、Monsieur d'Dée.

監督：岩名雅記、編集：井関北斗、撮影：高橋哲也、録音：Jérôme Ayasse ほか

## あらすじ

現代のパリ。自身のアート活動に深くのめり込んだ為の前妻スイコを失った日本人パフォーマー・Kは以前のようにシンバルを使ったパフォーマンスが出来ないでいた。初夏のある午後、Kは公演に使う板ガラスを買うためトルビアックにあるガラス店を訪れる。そこでKは店をまもる日本人女性朝子(35歳)に出会う。何故かほろ酔いの朝子。朝子はバレリーナを志ざして渡仏したが今は優しい夫ヤンと7歳になる息子トマの母親である。同じ日突然の雨でメトロ構内に入り込んだKが見たのは大勢の人びとの視線にさらされるイタリア人のフリーク女性シャルロット(32歳)だった。Kに「夢の中で逢いましょう」と告げるシャルロット。その晩、Kはシャルロットとのエロティックなサイドショーの夢をみる。一週間後ガラスを受け取りに行ったKは車で帰る間に思わず朝子とのランテューを口走る。驚いて路上に立ち尽くす朝子。自分の言動の軽率さを後悔するK。だが数日後朝子からKに電話がかかってくる。その晩、Kはまたしてもシャルロットの夢を見る一。

<監督略歴> 1945（昭和20）年2月東京生。'75年演劇から舞踏世界へ。'82年全裸／不動／垂立の'非ダンス'で注目される。'88年渡仏、現在まで70カ国／200都市で舞踏ソロ公演。'95年フランス南ノルマンディに拠点をつくり、2004年から映画製作を開始、2007年初監督作品「朱霊たち」は東京上映でレイトショーとしては異例の63%の稼働率をあげる。また同作品は英国ポルトベロ国際映画祭で最優秀映画賞を受賞したほか、ロッテルダム（蘭）、ヒホン（西）、タリン（エストニア）など9国際映画祭に公式招待される。第二作「夏の家族」はロッテルダム、ヨーテボリ（スウェーデン）ほか4国際映画祭で公式招待。そのご第三作「うらぎりひめ」を製作、「シャルロット すさび」は長編劇映画第4作目。「独立映画鍋」会員。映像舞踏研究所・白踏館主宰。

”モノクロと鮮烈なパートカラーで組織された幻想譚”と端的に言うには、あまりにも厳格に自身の内面と人生の痛みをダイレクトに直視した、まるで冷徹な映像を切り裂いて、そこから生身の血が噴き出してくる瞬間に、物語宇宙を通過しながら絶えず立ち会っているような、そんな稀有な映画体験をさせてくれる感慨深い傑作。  
大口和久(批評家)／抜粋

<https://motion-gallery.net/projects/susabichar>

<http://www.iwanabutoh.com/> （舞踏公式サイト）Official Site

mail: [mskiwn81@yahoo.co.jp](mailto:mskiwn81@yahoo.co.jp) / [scusabi@gmail.com](mailto:scusabi@gmail.com)

<http://www.iwanabutoh.com/ja/su>